

令和7年度 2月の補導活動

佐久市少年センター

1 街頭補導実施回数	17回
2 延べ従事補導委員数	74人
3 相談件数	0件
4 補導した少年数	0人
5 声かけ人数	287人



2月の活動日誌から

2月2日(月)

1班(N・K)記

巡回経路 大型ゲームセンター → ネットカフェ → ゲームセンター
→ ビデオレンタル店 → 大型書店

活動の様子

大型ゲームセンターには、小さな子ども連れの親子や一人で来店している大人の姿が目立ちました。2月に入り来店客も落ち着き、平日は年配の方が多く来店しているそうです。ネットカフェの駐車場は比較的車も多く、ダーツやビリヤードのフロアは満室でした。個別のブースは、うかがった時点では15%ほどの利用率のようでしたが、一日を通して30%ほどの利用客があったとうかがいました。隣のゲームセンターでは、2組の親子連れと一人で来店している大人の方が数名いましたが、フロアは静かな印象でした。10円、30円で遊べるクレーンゲームがあり、子どもたちには人気のようです。ビデオレンタル店では、仕事の手を止めて店員さんが対応してくれました。「親子連れの来店客が多く、子どもが一人で来ることは少ない」とうかがいましたが、DVDやCDのレンタルが中心であった往時とは隔世の感があると感じました。同じフロアの大型書店には、セルフレジが導入されていました。広い店内を見回すと、スタッフは2人で、かいがいしく働いていました。店内では、特に問題となることはないとお話でしたが、青少年健全育成への変わらぬご協力をお願いしました。

2月3日(火)

11班(N・S)記

巡回経路 生涯学習センター → 多目的広場 → 泉団地内公園 → 泉児童館
→ 泉野団地内公園

活動の様子

晴れてはいましたが、寒いせいか子どもたちはあまりいませんでした。生涯学習センターには、おやつを食べながらゲームをする子どもたちがいました。「課金には気をつけてね」と注意を促しました。子どもたちの中には勉強をする子どももおり、勉強は嫌だと言いつつも頑張っている様子でした。泉団地内公園には誰もいませんでした。泉児童館には、元気いっぱいの子供たちが20名ほど利用していました。子どもたちから「こんにち

は！」と元気にあいさつをしてくれて、温かい気持ちになりました。どの子も一輪車に乗ったり、ボールで遊んだり、パズルをしたり楽しそうでした。泉野団地内公園では、小学生が4名遊んでいました。私たちが声をかけると、少しおどけた様子で、「不審者だ！車で来て僕たちを誘拐しようとしているんだ！」と言うので、補導活動で見回りに来た旨を伝えると、満面の笑顔で学校や友だちの様子などたくさん話してくれました。

2月4日（水）

13班（専門補導委員）記

巡回経路 中込会館 → 中込駅 → グリーンモール → サングリモ中込図書館
→ 横町公園 → 橋場公園 → 成田公園 → 成知公園

活動の様子

早朝の冷え込みは厳しかったものの、巡回活動が始まるころには立春を感じさせる穏やかな陽気になりました。中込公民館の廊下には、習字や切り絵、銅板画の作品が展示されていて、公民館を訪れる人々を楽しませてくれます。3階の駐車場からは、新たに開園する中込地区新保育所の全容が見えます。中込会館を出て、中込駅方面に向かうと、駅前ロータリーには、13台の自転車が不法に駐輪されていました。撤去を呼びかける案内紙が個々の自転車に貼られていましたが、不法駐輪がなくなる現状では、強制力が必要かもしれません。グリーンモールを通過して、今年1月10日にプレオープンした「サングリモ中込図書館」に向かいました。新しい館内は明るく、書架が整然と配置されていました。学習席は3名が利用していました。女子中学生に話を聞くと、「間近に迫った期末テストに向けて学習している」と話してくれました。また、こうした学習環境ができたことを感謝していました。その後、中込地区の公園を巡回しました。横町公園には、3名の男子中学生が塾の開始を待っていました。橋場公園、成田公園に人影はなく、成知公園に向かいました。ここも閑散としたようでしたが、目を凝らすと、公園の隅に一人の少年の姿がありました。近くによって話してみることにしました。「高校生？」と話しかけると、中学2年生だと答えてくれました。中学生とは思えない体格に驚き、「何か運動やっている？」と聞くと、野球部の2年生で、ピッチャーをやっていること、大会で思い通りの成果が残せなかったこと、県外の高校から誘いがあることなど、スポーツマンらしい明るくはきはきとした口調で答えてくれました。友達をしばらく待つというこの中学生に、今後の活躍を期待していることを伝え、公園を後にしました。

2月5日（木） 街頭啓発活動（岩村田駅）

8班（Y・K）記

概要

今年は例年になく寒い日が続いています。今朝の気温は、 -8°C でした。そんな寒い朝、街頭啓発活動のために岩村田駅に集合しました。集合時刻の7時30分に、参加者7名が顔をそろえました。少年センター事務局から説明を受けた後、あいさつ運動のタスキと、配布するウェットティッシュの入った紙袋が手渡されました。活動を始めると、初めての経験なので「ちゃんと受けとってもらえるだろうか」、「不快な思いをさせないだろうか」と少し不安になりました。それでも、通勤、通学の皆さんにウェットティッシュを手渡しながら「おはようございま



す」、「いってらっしゃい」とあいさつすると、不思議と不安が少しずつ解消されていきました。早朝からの活動でしたが、こちらからのあいさつに、「おはようございます」と明るくあいさつを返してくれる人も大勢いました。最後のウェットティッシュを配り終わると、何ともいえない達成感で心が温かくなりました。早朝の寒い中での活動でしたが、啓発活動に参加いただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。

2月6日（金）

17班（I・K）記

巡回経路 臼田交番 → 下の宮公園 → 稲荷山公園 → 野沢多目的広場
→ 生涯学習センター

活動の様子

2月としては暖かい午後の巡回となりました。臼田交番の近くにある下の宮公園には誰もいませんでした。稲荷山公園に向かうと、下校する多くの小学生の姿を見かけましたが、公園に人影はなく、宇宙ロケット型の展望台「コスモタワー」も寂しそうでした。その後、少し足を延ばして野沢地区に向かいました。多目的広場の「人工芝広場」では、サッカーをする小学生や、キャッチボールをする親子の姿が見られました。「ちびっこ広場」や「すべる坂」でも、数人の子どもたちが楽しそうに遊んでいました。交流施設に入ると、3人の女子児童が、ボンボンドロップシールを交換しながら遊んでいました。また、大学受験をひかえた高校生が、受験参考書を開いて一所懸命勉強していました。すぐ



近くにある生涯学習センターを訪れると、1階のつどいの広場には、多くの小学生、高校生がいました。また、期日前投票所が開設されているこの施設を訪れる有権者も見られました。2階の学習室では、受験シーズンのためか、多くの高校生で席が埋まっていました。今回、野沢地区の2か所の施設を訪れましたが、子どもたちが遊んだり勉強したりして安心して過ごせる施設は、とても有用であると思いました。

2月9日（月）

12班（K・F）記

巡回経路 生涯学習センター → 旧大沢小学校 → 野沢多目的広場 → 原公園
→ 城山公園 → 生涯学習センター

活動の様子

厳寒の中での巡回活動となりました。いつもの通り生涯学習センターから巡視を始めました。1階つどいの広場には、高校生、社会人合わせて15人程の方が来館していました。また、2階学習室には、25人ほどの高校生が、小声の会話すらはばかりの静寂な環境の中で学習していました。旧大沢小学校へ移動すると、社会体育館前の駐車場に園児のお迎えと思われる車が10台ほど並んでいました。「洞源湖」には人影がありませんでした。

「野沢多目的広場」の交流施設には、高校生数人が静かに学習していました。一人の小学生が、下校時刻が過ぎたころにやって来て学習を始めました。ここも静かな環境が整えられていました。落書きウォール近くにあるフェンス扉が解放され、小学校の校庭から直接広場に入出入りすることができる状態でした。この扉の運用はどうなっているのか確認していただき、広場への出入りの周知をしていただく必要があると思いました。「原公園」で

は、帰宅後に来園した小学生2人がおしゃべりをしていますが、声かけはしませんでした。「城山公園」では、小学5年生の男子4人グループが野球道具やサッカーボールをもって集まっていました。声かけ後、「帰宅時間（17：00）を守って帰るように」と一声かけて別れました。生涯学習センターへの帰り道で、交通事故の懸念がある野沢中学校と野沢北高校の間の通りを巡回しましたが、下校中の学生は見当りませんでした。



2月10日（火）

15班（O・M）記

巡回経路 中込会館 → グリーンモール → サングリモ中込図書館

活動の様子

本日は、今年1月10日にリニューアルオープンした、グリーンモール中込内のサングリモ中込図書館を見学しました。開館時間は午前10時から午後6時までで、受付は2名の図書館司書が対応されています。図書館司書に話を聞くと、図書館内には、一般書コーナー、児童コーナー、絵本コーナーなどがあり、中高生向けのティーンズコーナーや、持ち運びに便利な文庫本コーナーなど、多くの書籍を取り揃えているそうです。窓際には学習席（8席）があり、本日は4名が勉強中でした。駅に近いので学生には最適で、静かで快適に学習できると思いました。また、館内には、インターネットコーナーや、コピーサービスがあるほか、授乳室も完備されており、子育て中の方も安心して利用できる環境が整っていました。駐車場は、建物向かいの有料駐車場が4時間無料で利用できるそうです。ぜひ多くの方に利用していただきたいと思いました。その後、集合場所の中込会館にもどると、学習室で3名ほどの中学生が勉強していました。廊下には、書道や表装、切り絵などの作品が展示されており、地域の方々が生き生きと活動されている様子が伝わってきました。

2月12日（木）

19班（K・M）記

巡回経路 望月支所 → 望月歴史民俗資料館 → 佐久良公園 → 若駒児童公園
→ 望月児童館

活動の様子



まだ2月の中旬でとても寒いはずなのに、気温は3月下旬から4月頃の暖かさを感じます。このように暖かい日は、公園など外で遊んでいる子どもたちもいるのではないかと期待し、望月支所を出発して望月歴史民俗資料館へ到着しました。当日は休館日のため人影はありませんでしたが、近日「郷土のひな人形展」が開催されるようです。次に、佐久良公園（さくらこうえん）に移動しました。この公園は、かなり広い公園ですがここでも遊んでいる子どもの姿はありませんでした。若駒児童公園に寄ると、一組の親子が楽しそうに遊具で遊んでいました。専門補導委員の方が話しかけると、7年ほど前に当地へ移住して来られた方でした。公園と遊具の大きさがちょうどよいので、子どもを連れてよく遊び

に来ると話してくれました。最後に、望月児童館を訪問すると、大勢の子どもたちが遊んでいました。望月小学校のすぐ近くにあるこの児童館は、低学年に限らず高学年の児童も数多く利用しているということでした。1年近く望月地区の街頭補導活動をしてきましたが、季節に関係なく公園など外で遊ぶ子どもたちの姿はかなり少ないように思います。この地区には整備された公園も多いので、もっと多くの子どもたちに利用していただききたいです。

2月13日（金）

6班（O・S）記

巡回経路 大型スーパー → 砂田公園 → 市民交流ひろば → 近津南公園
→ ねむのき公園 → 大型スーパー内ゲームコーナー・フードコート

活動の様子

平日の金曜日の活動でしたが、2月とは思えない暖かい日だったせいか、大型スーパーには来店客が多く、店内はにぎやかでした。砂田公園に向かうと、男子中学生5人が、楽しそうに遊んでいました。声をかけると、2年生のグループで、1日早いバレンタインデーにチョコレートもらった話題で盛り上がっていました。来週から始まる期末テストの準備も忙しいようですが、充実した学校生活を送っている様子でした。近津南公園には誰もいないことを確認し、ねむのき公園へ向かいました。ねむのき公園の四阿（あずまや）には、3人の女子小学生がいました。6年生とのことで、自分たちで作ったお菓子を持ち寄り食べていました。内気そうな子どもたちでしたが、「おいしそうなチョコレートケーキだね」とほめてやると、にっこり微笑んでくれました。大型スーパーへもどり、フードコート、ゲームコーナーを巡回しました。たくさんの親子連れでにぎわっていましたが、問題点は見られず本日の巡回を終えました。



2月16日（月）

2班（S・M）記

巡回経路 浅間会館 → 中央公園 → 一本柳公園 → 若宮公園
→ 岩村田児童館 → 岩村田公園

活動の様子

暦の上では立春が過ぎたとはいえ、本日は寒い日でした。岩村田の中央公園では、小学2年生の女の子が一人でいました。話を聞くと、近くのホテルに寄って、甘茶を飲んで帰るところだと屈託のない笑顔で話してくれました。気をつけて帰るように伝え、一本柳公園に行くと、小学3年生の男子4人がサッカーをしていました。「こんにちは」と声をかけると、元気な声であいさつが返ってきました。整備された公園で楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿をしばらく眺めていました。若宮公園では小学2年生の女子3人が、遊具で遊んでいました。人なつこい子どもたちで、今流行りの、ボンボンドロップシールをはったノートを見せてくれました。岩村田児童館を訪れたのは、4時を少し過ぎたころでした。50人ほどの子どもたちが、読書をしたり、卓球や一輪車で遊んだりしながら過ごしていました。職員の皆さんがしっかり児童を見守ってくださり、安心して子どもを預けられる施設



でした。最後に、児童館のすぐ近くの岩村田公園に寄ると、20人ほどの子どもたちが歓声を上げて遊んでいました。近くの学童保育の子どもたちで、2名の保護者が付き添っていました。この学童保育の運営は、保護者が主体であるとうかがいしましたが、子どもたちの放課後の居場所を提供するこのような組織があることを知り、驚くとともにたいへんありがたく感じました。

2月17日（火）

10班（K・T）記

巡回経路 生涯学習センター → 岸野児童館

活動の様子

生涯学習センター1階のつどいの広場には、小・中・高校生が60人ほど来館していました。小学生の多くはゲームを楽しんでいましたが、中・高校生は勉強に余念がない様子でした。高校生に声をかけると、「本日からテストが始まり、20日まで11教科のテストが実施される」と話してくれました。2階の学習室では、30人ほどの児童・生徒が勉強していました。その後、岸野児童館を訪問し、職員から児童館の様子を説明していただきました。市内の小学校ではインフルエンザが流行っており、岸野小学校でも1年生のクラスが学級閉鎖になっているとのことでした。この児童館でも児童が急に発熱し、急遽保護者に迎えをお願いしたことがあったということです。自宅での対応が可能な児童は帰宅していただいているため、通常は40人ほどの利用者があるようですが、当日は11人の児童しかいませんでした。児童館の壁面には、児童が段ボール紙に好きなキャラクターを描いた作品が貼ってありました。この工作のように集中できることがあるおかげで、子ども同士のもめ事が少ないとうかがいました。また、「頑張ったね」とほめてやることでやりがい刺激され、子どもたちの想像力が豊かになるとのことでした。岸野小学校は佐久市で一番小さな学校ですが、お寺の住職さんやOBの先生など、地域の方々がさまざまなかたちでボランティア活動をしてくださっています。そうした地域の協力もあり、子どもたちはのびのびと落ち着いた生活を送っているとお話しいただきました。

2月18日（水）

3班（K・N）記

巡回経路 大型スーパー → 佐久平南広場 → 砂田公園 → 市民交流ひろば
→ 近津南公園 → ねむのき公園 → 佐久平駅
→ 大型スーパー内フードコート・ゲームコーナー

活動の様子

春めいた陽気に油断していましたが、思いのほか風の冷たい日でした。大型スーパーに集合し、駅周辺の公園、佐久平駅、最後に大型スーパーを巡回しました。風が強かったこともあって、市民交流ひろばには数組の親子連れが遊ぶ姿は見られましたが、いつもよりひっそりとした雰囲気でした。近津南公園には、一組の親子が遊んでいました。楽しそうに遊具で遊ぶお子さんの傍らで、肩をすばめて見守っていた父親らしい男性に話しかけると、公園の近くにお住まいで、お子さんにせがまれて遊びに来たそうです。「お気をつけて」と声をかけ、その場を後にしました。ねむのき公園ではキャッチボールをしている親子を見かけましたが、総じて今日は、子どもたちが外で遊ぶ姿を見ることの

少ない日でした。佐久平駅の小海線待合室には、数名の乗客が列車を待っていました。参考書を開いていた男子高校生に話しかけると、小諸行きの列車を待っているとのことでした。寸暇を惜しんで勉強していることをほめると、照れくさそうに笑いました。最後に巡回した大型スーパーのフードコートには、友達と勉強する高校生がたくさんいました。フードコートやゲームコーナーでは、小・中学生の姿はありませんでした。

2月19日(木)

16班(D・Y)記

巡回経路 あいとぴあ → 生涯学習センター → 多目的広場 → 下越児童館
活動の様子

時々頬をなでる冷たい風に耐えながら、集合場所のあいとぴあで短い打合せをおこないました。天候を考慮し、子どもたちが集まりそうな野沢地区の施設を巡回することにしました。最初に、野沢地区の生涯学習センターにおじゃましました。鉄筋二階建てのこの施設は、新しく建てられ、冷暖房完備の素晴らしい建物です。小・中・高生から大人まで、快適に学習できる施設でした。この日はワックス清掃が終わったばかりということで、利用者は少なめでしたが、100人から200人程度の利用者があることは当たり前だそうです。つどいの広場は午前9時から午後10時まで利用でき、小学生は午後7時まで、中学生は午後8時まで、高校生は午後9時までと利用時間が決められているそうです。次に、野



沢多目的広場に向かいました。交流施設や人工芝広場、ちびっこ広場などが完成していて、子どもたちが元気に遊んでいました。交流施設内では、高校生が真剣に勉強していました。施設内では、南斗六聖拳『仁星のシュウ』の銅像がみんなを見守っていました。その後、下越児童館を訪問しました。館内では、勉強机に向かって宿題をしたり、2階の遊戯スペースで元気にサッカーをしたりする子どもたちの姿がありました。日脚が伸び、本

格的な春の訪れももう間近。臼田地区の公園に響く子どもたちの歓声を思いながらこの日の巡回を終えました。

2月20日(金)

14班(S・T)記

巡回経路 中込会館 → 中込駅 → グリーンモール → 横町公園
→ 水上公園 → 橋場公園 → 成田公園 → 中込児童館
→ 成知公園

活動の様子

春を感じさせる暖かい気候の中での巡回活動となりました。2日前に、県立高校の前期選抜合格発表がありました。街頭の子どもたちの様子にも変化があるのか気になりました。中込駅からグリーンモールを巡回しました。グリーンモールには新たな映画館が建設される予定で、17日に映画館の地鎮祭が執り行われました。開業は2027年内になるようですが、活気にあふれるグリーンモールがもどってくるのが楽しみです。グリーンモールを後にして、中込地区の公園を巡回しましたが、横町公園、水上公園、橋場公園、成田公園では、小・中・高校生を見かけることはありませんでした。中込児童館には、60人ほどの児童が遊んだり、宿題をしたりしながら過ごしていました。B型インフルエンザの流行

も落ち着いてきているとのことで、館の庭では大勢の子どもたちが元気に走り回っていました。子どもたちは声かけをすると、明るく返事をしてくれました。成知公園では、男子高校生が一人でサッカーの練習をしていました。サッカー強豪高校の3年生で、大学受験が終わり、4月からの新たな活動に備えて練習していると話してくれました。練習のじゃまをしないように、少し離れた場所から「がんばって」と声をかけました。車で移動中に、自転車通学の高校生を何人か見かけましたが、そのほとんどはヘルメットを着用していませんでした。何かしらの対策を講ずる必要があると感じました。



2月24日(火)

4班(専門補導委員)記

巡回経路 大型スーパー → 市民交流ひろば → ミレニアムパーク
→ 佐久平駅 → 大型スーパー

活動の様子

昨日までの暖かな春の陽気とは一転、冷たく強い風が吹く中、街頭補導活動を行いました。大型スーパー内のフードコートには、多くの高校生がおり、友達と話したり勉強したりしているようでした。ゲームセンターで1組の高校生に話しかけると「テスト期間で、学校が終わる時間が早かったから電車で来た」と笑顔で応じてくれました。続いて、市民交流ひろばに行ってみると、親子連れの子もたちが楽しそうに遊んでいました。また、何組かの中高生が、ベンチで友達と談笑していました。ある高校3年生のグループは、「高校生活最後の思い出作りに、今日は一日みんなで遊んで、ご飯を食べて、おしゃべりしている」と話してくれました。最後に佐久平駅へ向かうと、多くの生徒がバスや電車を待っているようでした。特に問題事項はなく、街頭補導活動を滞りなく終了しました。今日はそれぞれ異なる学校の生徒に話を聞きましたが、どの生徒たちも「学校生活は楽しい」と明るく答えてくれたのが印象的でした。

2月25日(水)

7班(I・H)記

巡回経路 大型ゲームセンター → ビデオレンタル店 → 中央図書館
→ 東会館 → 大型スーパー

活動の様子

久々に恵みの雨が朝から降り続く日でした。家畜改良センター茨城牧場の土が生き生きと観えたのは私だけでしょうか。大型ゲームセンター駐車場で待ち合わせし、当ゲームセンターの店内に入ると、大勢のお客さんがゲームを楽しんでいました。おおよそ45人ほどでしょうか、その中で、神奈川県から信州旅行に来ているという5名の大学生と話すことができました。また、子ども連れで来店しているお客さんも数組見かけました。次に、ビデオレンタル店を訪問しました。この店では、営業時間が午前9時から深夜2時までで、DVD等が多数展示されていました。店内の一角は、「18歳未満入室禁止」区域となっていました。その点を踏まえ、青少年の出入りについてたずねると、気になるお客には積極的に声かけをしているとのことで、一安心しました。この店舗は、「青少年健全育成協力店」に加盟いただいています。その後、東会館に寄りましたが、子どもたちの姿は見られ

ませんでした。立地的に小学校は近いのですが、児童の多くは児童館を利用するようです。また、中学校からはかなり遠いため、近所に住む生徒らが時々来館するにとどまるのでした。今日は子どもたちに会うことはできませんでしたが、雨だったことが影響しているのかもしれません。

2月26日(木)

18班(K・T)記

巡回経路 浅科支所 → コンビニ → 庄の上公園 → 浅科図書館
→ 交流文化館浅科 → 道の駅

活動の様子

浅科支所に集合し、塩名田バイパスのコンビニをたずねました。店員さんにお話をうかがうと、「こどもだけの来店は多くないが、近くにある自動車教習所の免許取得教習生(合宿生)が買い物に来店する」とのことでした。次に、庄の上団地内の公園(庄の上公園)を訪れましたが、人の姿は見られませんでした。園内は、草刈りなどの整備が行き届いていました。ただ、ここは車の駐車スペースが無く、公園の施設管理について不明点が話題となりました。続いて浅科図書館に向かいましたが、その途中、下校する児童の様子を見かけました。浅科図書館では、親子が一組、成人男性1人が利用していました。親子連れの子は外国籍の小学生で、英語や中国語も話せるようでした。隣接の交流文化館浅科では、施設の利用状況などを確認させてもらいました。施設として有効利用できるように取り組んでいるとのことでした。

2月27日(金)

9班(I・M)記

巡回経路 生涯学習センター → 東田公園 → 多目的広場 → 原公園
→ 城山公園 → ビデオレンタル店

活動の様子

雲が重くのしかかり薄暗いものの、春かと思わせるような暖かさのある午後の補導巡回となりました。野沢会館の生涯学習センター1階のつどいの広場では、10人ほどの小学生がいる中、8人はゲームに夢中になり、2人は宿題に取り組んでいました。ほかに、高校生4人がゲームをやっていたので話を聞いてみると、入学試験の結果待ちということでした。長い間受験勉強で頑張ってきたことを思うと、「お疲れさまでした」とねぎらいのことばをかけたくなりました。2階の学習室では、数週間前まで20人ほどの高校生たちが勉強にいそむ姿がみられましたが、今日は5人ほどしかおりませんでした。多目的広場の



交流施設では、小学生10人ほどがくつろいだ様子で過ごしていました。そのうち2つのグループでは、流行のボンボンドロップシールを見せ合っていました。「最近は何物かのシールが出回っているから気をつけて」というと、本物との見分け方を教えてくれました。しっかりしていると感心させられました。「みんなはどこまで買いに行くの」と聞いてみると、「100円ショップに行く」と答えてくれた子どもが多かったのですが、中には朝早く起きてわざわざ

山梨県まで買いに行くという強者までいました。最後にビデオレンタル店を巡回しましたが、責任者のお話では特に問題は起こっていないとのことでした。

冬季オリンピック考

ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックが多くの感動を残して閉幕した。日本選手団は、金メダル5個、銀メダル7個、銅メダル12個、計24個のメダルを獲得し、史上最多を更新した。例えば20年前の2006年、今回と同じ開催国イタリアのトリノで開催された2006年トリノオリンピックでは、荒川静香が日本フィギュアスケート界で初の金メダルを獲得した。それが唯一の獲得メダルであったことを思うと、その圧倒的なメダル獲得数の差に驚愕するばかりだ。

日本とイタリアの時差が8時間あるため、私はライブでの試合観戦は諦めなければならなかった。それでも、朝一番のニュースで選手の試合結果をチェックするのがこのイベント期間中の習慣になっていた。さて、今回の冬季五輪のハイライトは何だったか？「りく・りゅうペア」の涙の大逆転劇？満身創痍で挑んだスノーボード男子ハーフパイプ「平野歩夢」の極限の演技？それとも、女子1500mの「高木美帆」が悲願の金メダル獲得にかけた戦い？すべてが美しく感動的なドラマを見ているようであった。今ここで、今回の冬季オリンピックに参加された選手の皆さんに心から謝意と敬意を表したいと思う。

数々の栄光に彩られた冬季五輪の歴史の中で、私の記憶に鮮明に残る2つのオリンピックシーン(1984年ユーゴスラビア・サラエボ、1988年カナダ・カルガリー)がある。

「1984年ユーゴスラビア・サラエボ」～そのオリンピック選手は屋外リンクの隅で頭を抱え悲嘆に暮れた。彼の名は黒岩彰。前年の世界スプリント選手権で日本人初の優勝を果たし、スピードスケート男子500mの優勝候補に挙げられていた。当時のスピードスケート500m競技といったら、屋外リンクで天然氷を使用していたため、天候の影響を受けやすく、競技はインまたはアウトのいずれかのコースを同走者と1回滑って順位を決める方式が採られていた。レース当日、現地は大雪に見舞われた。そのため、レースは何時間も遅れた。500mでは不利とされるアウトコーススタートの黒岩は、時間がたつにつれて焦燥感に駆られ緊張が緩んでいった。レースは完敗であった。黒岩は10位と期待を裏切った。しかも、次組のレースに出場した北沢の快走は、王者の心がいなさを一層際立たせることになった。黒岩に代わって表彰台に立ったのは北沢欣浩(きたざわ・よしひろ)。21歳の若者は、決して多くを期待されていたわけではなかったが、38秒30のタイムで堂々の2位、銀メダルを獲得した。日本の冬季五輪史上6個目のメダル、スケートでは初のメダリストが生まれた。表彰台で銀メダルを受けるチームメイトの姿を、黒岩はどんな気持ちで見っていたのだろう。いや、表彰の姿を見る余裕など、彼にはなかったに違いない。精神的な重圧に押しつぶされたとも言われたが、彼は一切言い訳をしなかった。心身は木っ端みじんに打ち砕かれ、心の奥底に刺さった棘を意識していた。その瞬間から、黒岩は茨の道を歩み始めた。

「1988年カナダ・カルガリー」～臥薪嘗胆の4年を経て、黒岩がもどってきた。前年度総合優勝を飾り、不屈の精神で再びオリンピックに臨むために。リンクこそ室内に変わったが、抽選の結果でインコーススタートかアウトコーススタートかが決まる。黒岩が引いたのは、アウトコーススタ



ート。しかも4組アウトコーススタートは、奇しくも惨敗を喫した4年前のサラエボとまったく同じものだった。悲観的な観測が流れる中、黒岩は落ち着いていた。彼は、4年間ずっと4組アウトコースをイメージしてトレーニングしていたからだ。4組の黒岩がスタートラインに立った。黒岩と同じ4組のインコースからスタートするのは、優勝候補の一角、東ドイツのウーベ・イエンス・マイ。張りつめた緊張感の中、スタートの号砲が鳴った。大歓声の中、インコーススタートのマイが一步先にゴールに滑り込んだ。世界新記録であった。黒岩の記録は36秒77の自己ベスト記録であった。黒岩はゴールしてすぐにマイのところに駆け寄って祝福の声をかけた。後走の有力選手の記録を考えると、黒岩のメダル獲得はかなり難しいと覚悟しなければならなかった。しかし、その後も、2人を上回るタイムを出す選手は現れず、結局、マイが金、黒岩が銅となった。金と銀の2人は、ともに有利なインスタート。黒岩は、アウトスタートの選手の中で一番速いタイムをマークし、しかも銀メダルを獲得した選手とのタイム差は、わずか100分の1秒しかなかった。



奥底に刺さった棘を、黒岩はこの日ようやく抜き去った。

私達オリンピックの観衆は、メダルの獲得数や色を強く意識しがちである。確かにオリンピックメダリストという称号は、スポーツ選手にとってスポーツに人生をささげた証である。胸にメダルを下げ、海外から凱旋したオリンピック人に向けて報道カメラマンがシャッターを切る。すがすがしい表情でインタビューに答えるメダリストたちに私たちはこの上ない拍手を送る。ただ一つ、忘れてはならないことがある。それは、すべての選手がメダリストになれるわけではないという冷酷な事実である。数センチ、数百分の1秒差でメダルを逸した選手、決勝のレースに駒を進めることがかなわなかった選手、練習中のけがでやむなく競技を離脱した選手、そして、人生をかけた努力もむなしく、オリンピック出場の夢を絶たれた多くの選手たち。私たちはこれら数多くの選手たちがいたことを想起し胸に止めておかなければならない。そして、一握りのメダリストと同じように敬意を払うことを忘れてはならない。

サラエボ大会から帰国後、黒岩は、友人や大学時代にお世話になった人たちと顔を合わせるのも嫌で、実家にももどらなかつたという。会わせる顔がなかつたのだ。そんな黒岩が選んだ4年間の茨の道は屈辱に満ちたものだったのだろうか。後日黒岩は「もちろん銅メダルを獲れたことは、形として残すことができたということでは良かったなと思いましたが、それよりもサラエボ大会からカルガリー大会までの4年間という時間こそが自分にとってメダル以上の価値がある財産のように感じました。」と述懐した。黒岩にとっての4年間を、サラエボで心に刺さった棘に苦しみ、必死に取り除こうともがいていた期間であったと思い込んでいた私は留飲を下げた。

スケート競技に限らず、スポーツは私たちに夢と感動を与えてくれる。今年もWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)やサッカーワールドカップなど、楽しいスポーツイベントが目白押しだ。世界最高峰の選手たちが、国の威信をかけて戦うドラマから今後も目が離せない。